

歯・口の健康づくり推進計画

沖縄県教育委員会

1 趣 旨

本県の健康課題であるむし歯を含む「歯・口の健康づくり」について、学校保健に携わる教職員が知識や理解を深め、学校三師や保護者・地域の関係者と連携することで、健康課題の解決を図る。

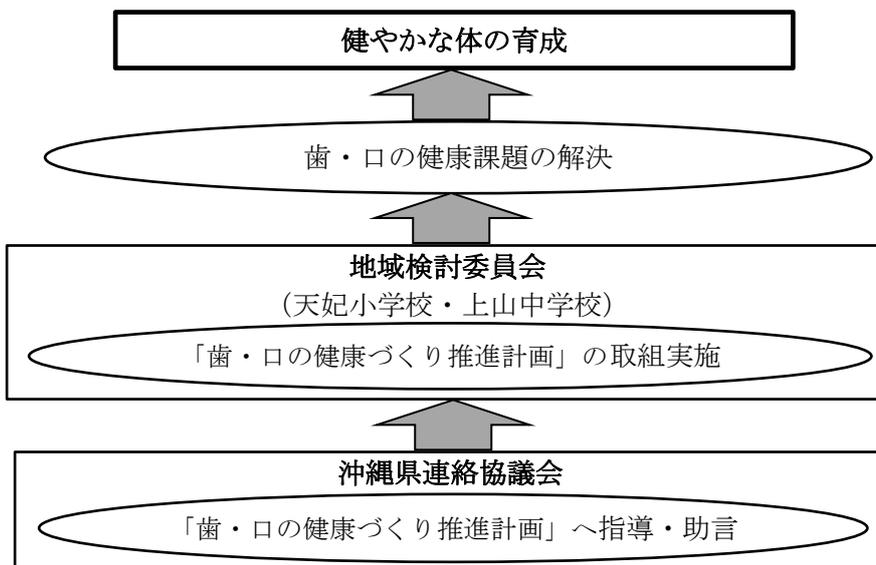
2 計画の期間

平成29年度～平成31年度

※平成30年度学校保健総合支援事業は、平成30年6月1日～平成31年2月28日

3 計画の体制

本計画は、医師、歯科医師等の専門家、校長、養護教諭などの学校関係者、PTA、保健医療部等の関係機関の代表者で構成する「沖縄県連絡協議会」から指導助言を受け作成する。本計画を基に、那覇市立天妃小学校及び上山中学校において、「地域検討委員会」を設置し、「歯・口の健康づくり」をテーマに取組を実施する。



4 現状と課題

- (1) 児童生徒のむし歯被患率は、経年的にみると減少傾向にあるが、全国と差がある。また、12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯等数は、全国最下位である。(図1、図2)

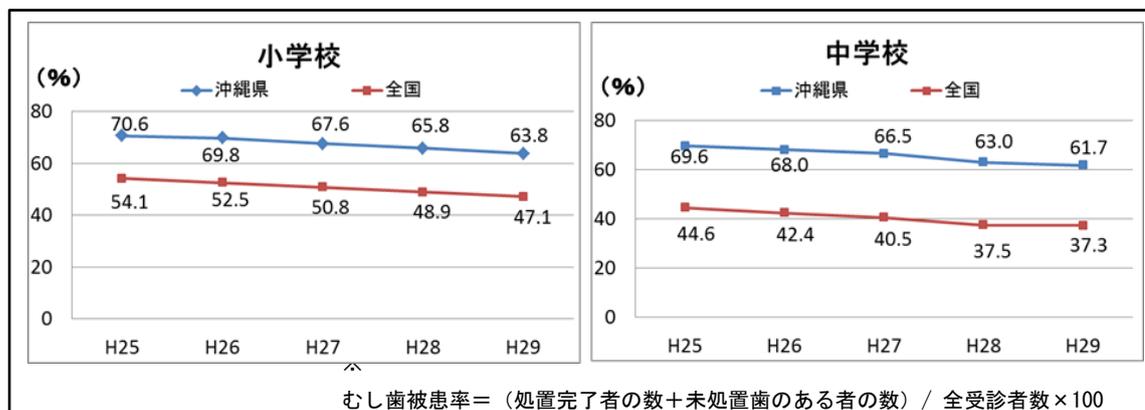


図1 むし歯被患率 平成29年度学校保健統計調査より

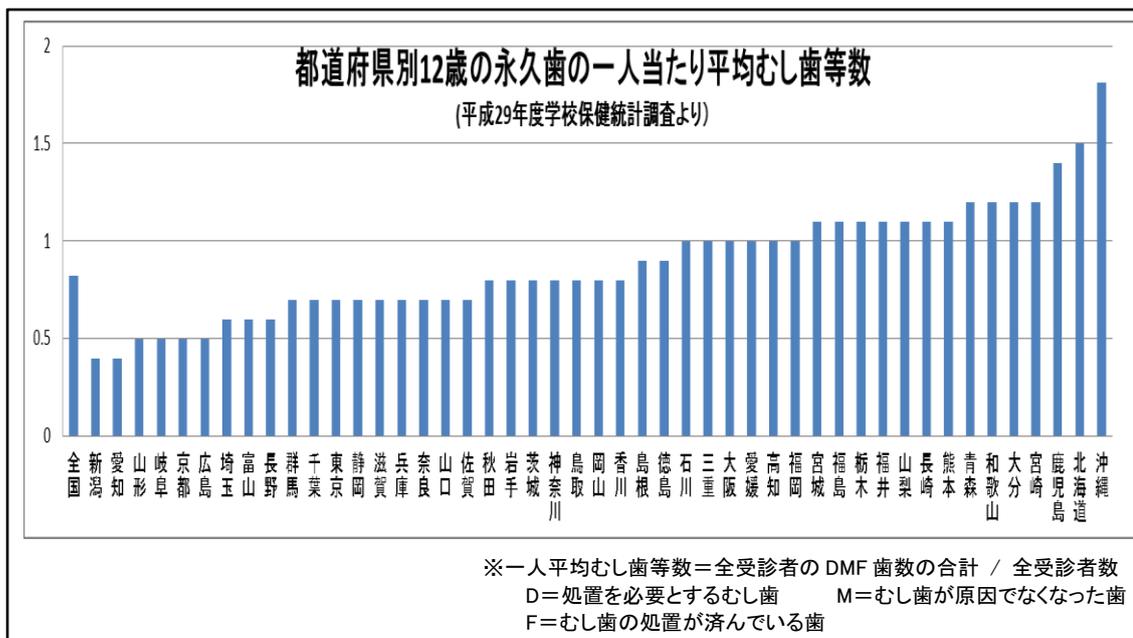


図2 都道府県別永久歯の一人平均むし歯等数

平成29年度学校保健統計調査より

(2) 児童生徒の歯垢の状態が「相当の付着があると判定された者」、歯肉の状態が「専門医による診断が必要と判定された者」の割合は、全国より高い。(図3、図4)

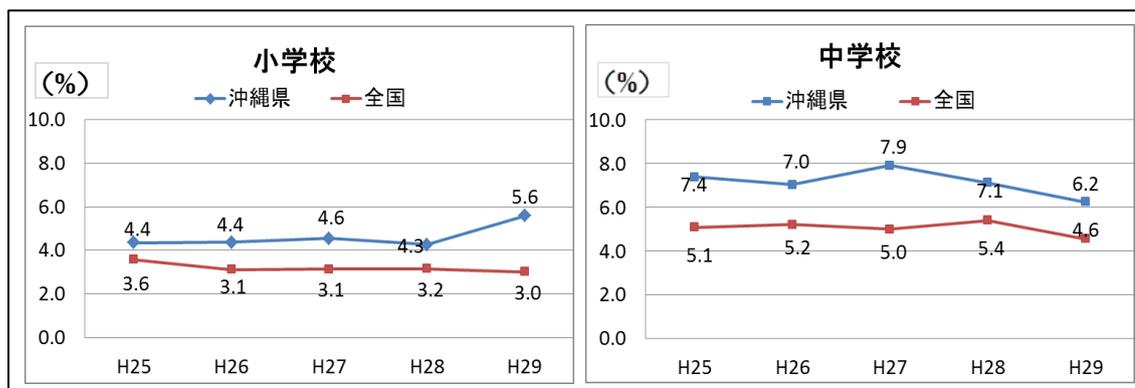


図3 歯垢の状態：相当の付着があると判定された者の割合

平成29年度学校保健統計調査より

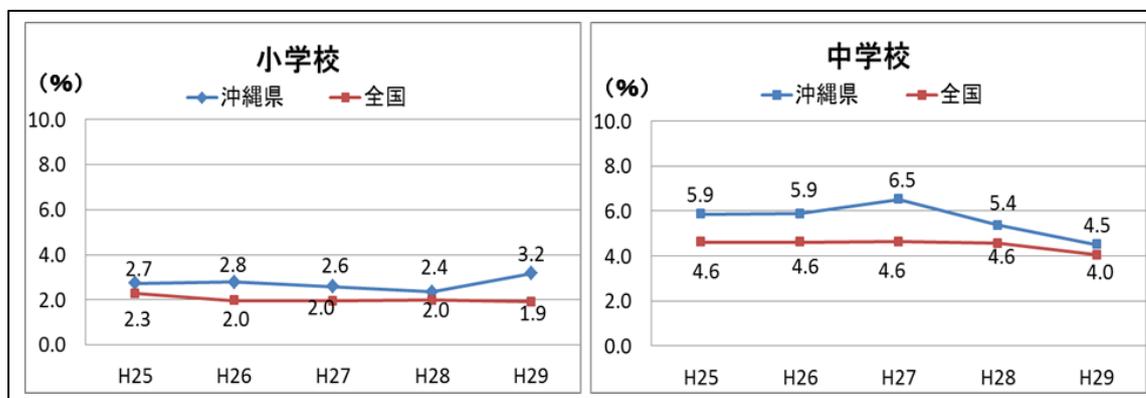


図4 歯肉の状態：専門医による診断が必要と判定された者の割合

平成29年度学校保健統計調査より

(3) 定期健康診断後に、むし歯で受診を勧奨された児童生徒のうち、受診した児童生徒の割合は、小学校 29.2%、中学校 19.7%で、中学校は低い状況である。(図5)

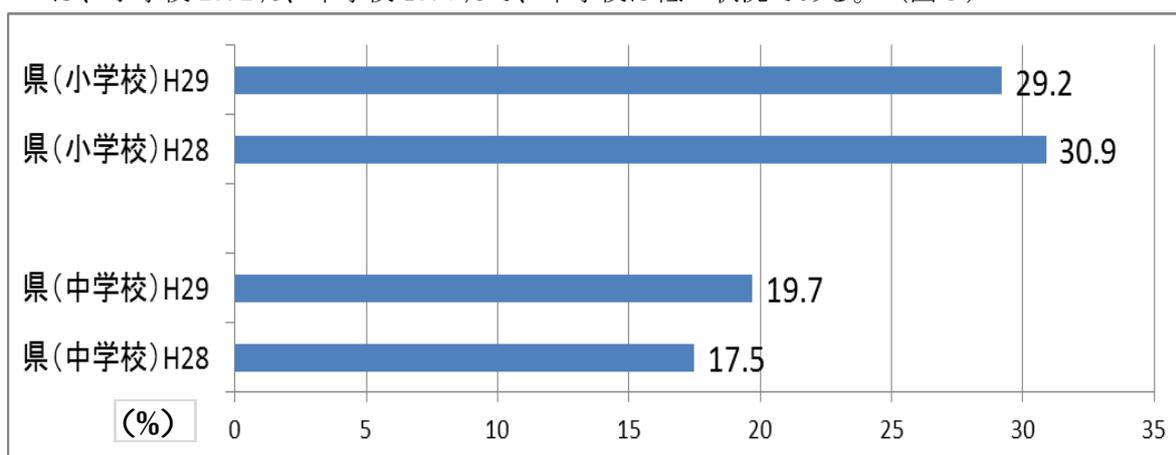


図5 むし歯により受診した児童生徒の割合

平成28・29年度児童生徒の健康診断事後措置に係る受診状況調査より(県教育委員会)より

5 目標

- (1) 学校、家庭、保健所等の地域関係者が連携した地域検討委員会(学校保健委員会)による児童生徒の課題解決にむけた活動を促進し、歯・口の健康づくりに資する。
- (2) 児童生徒におけるむし歯被患率の減少。
- (3) 定期健康診断後に、むし歯で受診を勧奨された児童生徒のうち、受診する児童生徒の割合の増加。
- (4) 歯垢の状態が「相当の付着があると判定された者」、歯肉の状態が「専門医による診断が必要と判定された者」の割合の減少。

6 主な取組

- (1) 学校保健委員会を活用した地域検討委員会を設置し、小学校と中学校、家庭、保健所等の地域関係者が緊密な連携を図り、むし歯や歯周疾患の予防に向けた取り組みをする。
- (2) 定期健康診断の結果、受診が必要な児童生徒に受診勧奨を行うとともに、学校と学校歯科医が連携した事後措置を行う。
- (3) 学校と学校歯科医等が連携し、歯・口の健康づくりについて、発達の段階に応じた適切な指導や管理ができるよう取り組むことで、児童生徒の「健やかな体の育成」を図る。